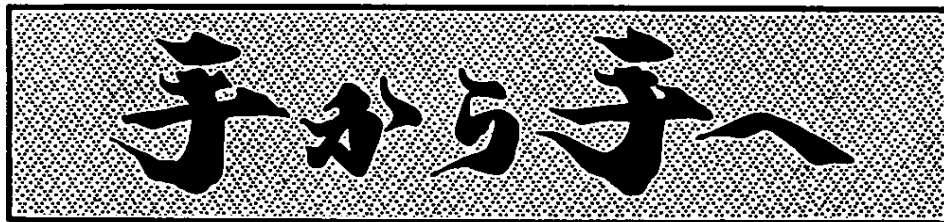


この『手から手へ』は全教職員に配布しています。 まだ組合に入られていない方、ぜひ加入してください！

発行
東京都立大学労働組合
TEL=042-677-0213
Eメール=union@apricot.ocn.ne.jp
HP=http://tmu-union.org/



第 2902 号

2021 年 11 月 8 日

～オンライン学習会 II に参加して～ 「高精度年代測定と時代区分」 山田康弘さん

10月21日（木）、東京都立大学労働組合が開催した第2回オンライン学習会に参加しました。

今回の学習会では、考古学、とりわけ骨考古学を専門とする山田さんから、人類学や年代学などの理化学分野との共同研究が基本になっているという先史時代の考古学研究の現状を聞かせていただきました。以下では、触れられたさまざまなトピックの中からいくつかをご紹介します。

年代測定法と縄文時代・弥生時代の見直し

これまでも出土遺物の年代測定には炭素とその半減期に注目した方法が用いられてきましたが、加速器質量分析（AMS）により、微量の炭化物からでも精密な年代測定が可能になりました。この測定法を、縄文時代草創期の遺物と弥生時代の遺物に用いた結果、縄文時代の年代幅に修正を迫られることになりました。

日本列島で土器は最初期から煮炊きのために使われており、その使用開始期である縄文時代草創期は、15000年前、最終氷期が終わり、温暖化が始まり植生の変化に伴い食生活も変わる時期からだと言われてきました。しかし、青森県から出土した最古の土器は、最終氷期中の16500年前にまで遡り、土器使用の開始と温暖化を結びつける理解に修正を促しました。そして（1）最古の土器には魚の脂が付着していたこともあり、寒冷期において固形燃料や携行食料を作るために、あるいは温かい食事をとるために土器使用が始まり、そこに縄文時代の開始の画期をみるべきという見解、（2）やはり15000年前に土器が全国に普及することから、温暖化と縄文時代の開始との結びつきは維持されるべきという見解、（3）土器以外の竪穴住居・弓矢・土偶・貝塚の使用開始・普及を縄文時代のメルクマールとし、11500年前ごろを開始期にするべきという見解が鼎立しています。山田さんは、（3）を魅力的としつつも、土器で煮炊きによる食事・栄養摂取事情の変化も重要だと指摘し、開始期を定めるよりも、縄文時代のなかの変化のプロセスを追うことのほうが有益ではないかと述べました。

弥生時代は2300年前ごろから1700年前ごろまでとされてきました。旧来の炭素測定法を用いることは、2800年前から2400年前までの炭素濃度が一定であったことにより難しいため、前漢・後漢時代の中国で作られた鏡を年代決定の指標に用いていました。ところが弥生時代の遺跡の遺物を加速器質量分析

（AMS）で測定した結果、稲作の開始は北九州ではおよそ3000年前である一方で、青森県では2400年前ごろで、600年の幅があることが分かりました。稲作は日本列島に時間をかけて普及しているため、全国一律の弥生時代の開始年代を定めることが適切なのだろうかという疑問を山田さんは投げかけました。

人骨の分析

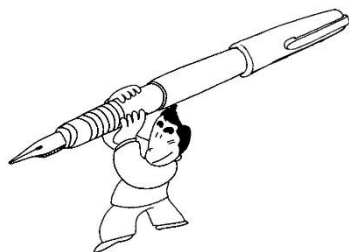
加速器質量分析は人骨に用いることも可能です。例えば、愛知県稲荷山貝塚の墓域で見つかった異なる抜歯慣習を持つ人々について、これまで考えられていたように同時代に混在して生活していたのではなく、異なる時代に暮らしていたことを明らかにしました。また骨の中の炭素と窒素を調べることで人々がどのような食事をしていたかも分かります。富山県小竹貝塚では、バランス良く食べている人たちの中に、魚ばかり、植物ばかり食べていた少数例がありますが、後者は壮年期の男性が多く、彼らが遠くの出身地から離れ、婚姻により定住したと解釈でき、人の移動や結婚のパターンを想定することもできます。

質疑応答のなかでは、文理融合や学際的といわれる現在の研究状況も、若い頃からの共同研究により築き上げられていること、考古学者が積極的に仮説を提示し、理系の研究者たちが検証することで学問が進展していく状況が説明されました。そして研究分野を問わず、学生間の交流がいかに大切か、そして山田さんご自身の教育への抱負を語っていただきました。

考古学研究の面白さを伝えるだけでなく、東京都立大学が総合大学であることの意味を聞き手に考えさせてくれる学習会となりました。

《副中央執行委員長・高橋亮介》

「臨時職員雇い止め問題アンケート」結果（『手から手へ』第2901号）について、感想・ご意見をお寄せください。



恒例の大望年会は中止

緊急事態宣言は解除されたものの、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を考慮し、東京都立大学労働組合中央執行委員会は、毎年恒例の組合主催「大望年会」を、今年も中止することを決定しました。

例年ビンゴ大会を行っていましたが、今回も『手から手へ』新年号にパズルを掲載し、賞品を用意いたします。お楽しみに！